

自治体の課題、現状

1. 部活動の選択肢が少ない・選べない
学校ごとに種目や部活数にバラつきがあり、少子化による廃部が増加
2. 部活動に起因するトラブルの増加
 - ・人間関係のトラブル、苦情、ケガの対応など負担が増大
 - ・教員不足が深刻化する中で教員が顧問となる仕組みは限界
3. 生徒・保護者の意識の変化
 - ・生徒・保護者のニーズは、より「楽しむこと」に変化（ダンス、釣りなど）

体験会の実施の概要

中学入学後、部活動からコベカツに切り替わる移行期中中学生となる、小学校5・6年生を対象に、コベカツの具体的なイメージと、新たな種目も対象になることを伝えるため、コベカツ体験会を実施した。

| 内容 | 参加者数 | 内容 | 参加者数 |
|--------|------|--------|------|
| ボルダー | 10人 | フェンシング | 20人 |
| ヒップホップ | 20人 | 釣り | 20人 |
| ドッジボール | 20人 | ラグビー | 30人 |

参加した生徒や保護者は、楽しみながらスポーツをすることなどに期待していた印象で、子どもたちに様々な活動にチャレンジしてほしいという思いの保護者も多かった。

また、体験会の様子は、コベカツ専用ホームページで発信することにより、参加者だけでなく、参加できなかった児童生徒・保護者に対してもアプローチすることができた。



地域移行関連の取組、成果

【アンケート実施によるニーズ把握と工夫を凝らした結果の公表】

小4～小6へ中学校になったらやってみたい活動についてアンケートを実施した。Tableauを活用し、小学校校区ごとにニーズを落とし込むことで、活動団体がニーズを把握することができ、第1次募集では、ダンス、バスケットボール、バレー、サッカーなど、子どもたちのニーズが高い種目は、参画の相談も多く受け、比較的多くの団体に参画いただくことができた。

【戦略的広報（パブリシティの活用）】

事業を進めていくうえで、「生徒・保護者」「活動団体」「企業(サポート)」と、それぞれの視点で分かりやすい広報を届ける必要があった。

プロのノウハウを活かし、分かりやすい専用ホームページを開設した。

説明を補足する動画も掲載することで、申請手続きに関する問い合わせ対応の効率化につながった。

運営体制図

